

「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」報告書

研修プログラムの試行 アンケート結果

改定委員会委員長 小川 朝生

国立がん研究センター先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野 分野長

A. 目的

平成 23-25 年度厚生労働省委託事業で開発されたテキスト、研修プログラムに対して、実態調査により得られたピア・サポートの現状を踏まえ、1)都道府県でピア・サポートの養成研修が実施できること、2)がん診療連携拠点病院においてピア・サポートの受入れを進めることを目標に、ピア・サポート養成研修ワーキンググループを中心に、研修プログラムの改訂をおこなった。

開発された研修プログラムを用いて、平成 31 年 2 月 9、10 日の両日、東京において、試験的に研修会を実施した。

研修会の実施にあわせ、参加者より、本プログラムに対する意見を収集し、本プログラムの妥当性を検討する事を目指した。

B. 経過

研修会開催終了後に、受講者（行政・医療従事者 20 名、がん体験者 25 名）に対して、アンケートを依頼した。

アンケートでは、プログラムの各項目に関して、「今後ピア・サポートに関する活動をすすめる上で役立つと思うか」について、5 件法で回答を求めた。

加えて、内容妥当性を検討するために、1)プログラムの構成に関する意見、2)難しいと感じる項目に関する意見、3) 不要な項目に関する意見、4) 追加したほうがよい項目に関する意見を自由記述で求めた。

- 1) プログラム各項目の有用性について結果を表にまとめる。9 項目すべてにおいて、行政・医療従事者および体験者よりほとんど「強くそう思う」「ほとんどそう

思う」の回答を得た。

		行政・行政・医療従事者:20名体験者:25名 (計45名)				
プログラム評価の基本的な項目		強く そう思う	まあまあ そう思う	どちらと も言えない	あまり 思わない	全く 思わない
1	体験者サポートってなに？	1	2	3	4	5
	回答 行政・医療従事者	11	8			
	体験者	20	3	1		
2	体験者サポーターの役割と活動指針 (1日目)	1	2	3	4	5
	回答 行政・医療従事者	14	6			
	体験者	20	4			
3	自己の体験を語る	1	2	3	4	5
	回答 行政・医療従事者	13	5	1		
	体験者	16	8	1		
4	行政や医療機関が支援できること	1	2	3	4	5
	回答 行政・医療従事者	8	10	1		
	体験者	12	8		1	
5	がん診療の基礎知識と情報提供の注意点	1	2	3	4	5
	回答 行政・医療従事者	10	9			
	体験者	17	8			
6	よりよいコミュニケーションのために	1	2	3	4	5
	回答 行政・医療従事者	10	9			
	体験者	19	5	1		
7	ロールプレイ	1	2	3	4	5
	回答 行政・医療従事者	11	4	1		
	体験者	22	4			
8	グループファシリテートのために	1	2	3	4	5
	回答 行政・医療従事者	12	9			
	体験者	11	2	1		
9	体験者サポーターの役割と活動指針 (2日目)	1	2	3	4	5
	回答 行政・医療従事者	10	8			
	体験者	18	5	2		

2) プログラムの構成に関して

回答では、ロールプレイを中心に、構成について肯定的な意見であった。

(主要な回答)

- とても良かった、大事なことを沢山学んだ
- 講義内容もすぐに役に立つようなスクール形式、ロールプレイ等の組み合わせは

良かった。

- スクール形式講義は、重なっていることもありもう少し短くしてグループディスカッションが出来たらと思いました
- ピアサポーターの方々のロールプレイが見学できてよかった
- 相手を大切に、自分を大切に、ファシリテート、振り返り報告良かった
- ロールプレイについてもっと時間があれば2度の体験が出来たのでさらにスキルアップになったと思う

がんサロンなどのグループを扱う項目についても肯定的な意見があった。

(回答)

- サロンなどのグループでのピアサポート活動についてプログラムが入っているのが良かった
- 状況提供、情報の探し方、がん相談支援センターの紹介が入っていたのが良かった。拠点病院の患者さんもご存知無かったり病院の努力不足がありますが、一人で活動される方にとっては必要なことだと思います
- 講義中 GW が多く他施設や地域で活動されるピアサポーターの方の話が聞けることが今後役に立つと思う

今後の運用に関して、その後の活動と連携した展開を希望する意見があった。

- ピアサポーターと医療機関、行政がペア参加することは意味はあると思うが、日程同一は医療機関参加者にとっては負担があるのではと感じた
- 医療者とサポーターと違う内容にしたほうが良い所がもう少しありそうな気がします
- 細やかに配慮のあるプログラムだったと思う。質問も多くありましたが、実際に明日からどうするかが分からない点が残ったように思います
- 今回は全国からいらしているので連日でしたが、今後県で行なうなら、例えば毎週月曜、日毎に振り返る時間が少しあれば良いと感じた

### 3) 難しい項目の内容について

体験を語ること、ロールプレイ、振り返り等の実践的な内容を中心に意見があった。今後、

本プログラムを実施するにあたり、参加者の経験に応じたサポートが重要であり、展開に向けた課題である。

- 一つ一つをもう少しゆっくり学びたいと思った、又自分で振り返る時間もあると良いと思いました
- ロールプレイ難しいのでもう少し時間を取って欲しかった
- より良いコミュニケーション（が難しかった）
- ロールプレイの利用者役、経験が異なるので難しい
- 参加者は何らかの経験者が目立った。初めての人は相談役の設定に段階があったほうが良いと思った
- がん診療連携拠点病院の中と限定しなくてもいいかな・・・NPO の立場から
- 振り返りが重要。病院スタッフと情報共有するのは課題だと思う
- 聴き方は練習が必要と感じた（自分のこと）
- （聴き方は）基本的な内容ですがとても大事なことと感じました、知識の再確認が出来て良かった

行政・医療機関向けの項目については、各都道府県・医療機関に応じた支援は、検討項目である。

- 行政医療機関が出来ることについて理解は出来るが実際はわからない

### 4) なくてもよいと思う項目について

不要と思う項目については、一部経験者よりすでに知っている知識との意見がみられたが、全てが大切との肯定的な意見が多かった。

- ロールプレイ基礎ではちょっとハードルが高いと思った。又今回のメンバーはすでに活動されている方が多くとても上手にされていました
- より良いコミュニケーション、すでに知っている内容が結構あった

### 5) 追加した方がよいと思う項目、内容について

追加した方がよい項目については、実際の活動例、フォローアップの仕方など実践例の

紹介を求める意見があった。

- がんサロンを行なっている実態を教えて欲しい
- どのように広がっていったのか教えて欲しい)
- ロールプレイ、グループディスカッション、ピアサポーターの方々の代表的な活動事例
- ロールプレイや実践形式の時間
- ピア・サポートを具体的にはじめている人の話も良かった
- スタートするに当たり心構えや準備の手順を教えていただきたいと思います
- 実際に活動されているピアサポーターさんから自分たちの活動を通して良い点、悪い点、これからの活動展開を教えて欲しい

また、相談支援センターや緩和ケア等の連携が必要な部署についての知識について求める意見もあった。

- 緩和ケアや専門職の特色について（知らないと使えないから）
- 実際のがん相談支援センターとピア・サポーターとの振り返りに付いて、もっと詳しく聞きたかった。実際ピア・サポート活動している人の事例報告など
- 有償、無償の（支援の）色々もっと知りたい

## 6) その他

行政の動きへの期待やフォローアップに関する希望があった。

- 具体的にはピアサポートはどのようなでしょう。各県での動きが見えない
- 各自治体でのピアサポーター状況、拠点病院、それ以外のピアサポーターの利用状況を知りたい
- 今回の研修を公募ではなく、都道府県、拠点病院、相談支援センターの方々に行うのはいかがでしょうか
- 受講された方が努力して活動場所を探すのではなく求められた活動を始めるのがBest だと思う
- 主催者（ピアサポーターをケアする側）のケアも考えて欲しい
- フォローアップセミナーの開催を希望し

ます。

- 医療者とピアサポーターの併せた内容の講義を主にしても良いのでは。一緒に学ぶ機会が貴重だと思う
- 次回スキルアップの為にも又参加したいです
- 医療従事者として今後ピアサポーターとどう支えていけばいいのかヒントが沢山ありました。サポーターの方と事前に取り決めしておく事、例えば治療のことなどこちらに振って下さい。あらかじめ伝えておくことでピアの方も安心してサポート活動が出来る。と実感いたしました。自分自身があいまいだったと明確になって良かった。

## C. 考察

本試行に際し、参加者からはプログラム各項目とも有用との評価を得た。不要な項目についても指摘はなく、項目の妥当性は確認された。難易度についても、講義はレベル設定も妥当であった。ロールプレイに関して受講者の経験によっては難しく捉えられた場合があり、参加者のスキルに応じたファシリテーターの支援が重要である。

プログラムの時間数との兼ね合いはあるが、実践や今後のフォローアップとの連携への希望があり、今後の系統立てた支援と合わせて展開が望ましい。